

「人種」と「人種主義」をめぐる博物館展示の動向 フランスの人類博物館とアメリカ人類学会の展示会の事例

Trends of museum exhibitions on "race" and "racism":

Cases of exhibitions by Musée de l'Homme in France and the American Anthropological Association

亀井伸孝 (愛知県立大学) KAMEI Nobutaka (Aichi Prefectural University)

キーワード：人種、人種主義、博物館展示、人類博物館、アメリカ人類学会 (AAA)

Keywords: race; racism; museum exhibition; Musée de l'Homme; American Anthropological Association (AAA)



Race is a recent human invention. It's only a few hundred years old, in comparison to the lengthy span of human history. Although not scientific, the idea of race proposed that there were significant differences among people that allowed them to be

【要旨】2017年に、フランスとアメリカで、人種および人種主義をテーマとした博物館展示会が開催された。本報告では、これら両展示会を現地で視察した経験に基づき、展示内容を具体的に紹介するとともに、両者を比較しながら分析を行った。両展示会とも、「人種」は政治経済的な時代状況の中で構築された概念であるとの認識に基づき、自然科学の知見をも活用して、人種主義を否定する明快なメッセージを発していた。一方、両者の間には、地域性を反映した差異も見られた。これらの人類学・博物館による啓発実践事例は、この分野に関する日本での今後の取り組みのための示唆をもたらしてくれる。

- 【はじめに】2017年、フランスとアメリカの博物館で、同じ時期に、人種および人種主義をテーマとしたふたつの展示会が開催されていた。本報告では、これらの展示内容を具体的に紹介し、今後の日本における取り組みの参考事例として提示することを目的とする。
- 【背景】世界における人種主義の再燃という現象 → 人種主義の再燃を防ぐことは、重要かつ切迫した世界的課題のひとつ
- 【方法】フランスとアメリカのふたつの博物館展示における現地調査を実施、比較の上、分析を行った(表1)。

表1 本報告で取り上げる、人種および人種主義に関連するふたつの博物館展示(出典:現地調査に基づき報告者作成)

調査地	フランス・パリ、人類博物館 (Musée de l'Homme, Paris, France)	アメリカ・シカゴ、シカゴ歴史博物館 (Chicago History Museum, Chicago, USA)
展示会名称	「私たちと他者: 偏見から人種主義まで」 ("Nous et les autres : des préjugés au racisme")	「人種: 私たちはそんなに違うのだろうか?」 ("Race: Are We So Different?")
開催期間	2017年3月31日～2018年1月8日	2017年11月11日～2018年7月15日
現地調査日	2017年10月21日、同12月27日	2017年11月19日
備考	ユネスコと共催	アメリカ人類学会(AAA)による巡回展示の一環

- 【結果1】フランス、人類博物館における展示の構成と内容[写真1-1]
- (1) 分類をめぐる政治性(円形シアターにおける導入の映像)
 - (2) 人種主義の構築過程(博物学、人類学の系譜に属する研究者らの著作[写真1-2]、植民地博覧会ポスターなどの展示[写真1-3])
 - (3) 人種主義がもたらした悲劇(アメリカ公民権運動、ナチスドイツによるユダヤ人迫害、ルワンダ虐殺に関するドキュメンタリー映像)
 - (4) 世界の他の地域の事例(アイヌ、ピグミー系狩猟採集民)
 - (5) 自然科学の成果(進化論、遺伝学、生理学による成果[写真1-4])
 - (6) 素朴な疑問と回答(人種にまつわるQ&Aコーナー)
 - (7) フランス社会における現状(インタビュー映像、統計データ揭示)

写真2-1 展示会エントランス

写真2-2 ヒトは移動と混血の歴史

写真2-3 所得格差を礼束で表現(左:白人、右手前:黒人、右奥:アジア系)

写真2-4 理想の国勢調査は?

写真1-1 展示会エントランス

写真1-2 博物学者・人類学者の古典的著作

写真1-3 フランスにおける植民地博覧会のポスター

写真1-4 遺伝学のアニメ映像

- 【結果2】アメリカ、シカゴ歴史博物館における展示の構成と内容[写真2-1]
- (1) 総論的なエントランス[写真:ポスター冒頭のタイトル右横挿図]
映像:アメリカ史における奴隷貿易と植民地支配の歴史
床面の巨大な世界地図:ヒトの出アフリカと移動、拡散を表現[写真2-2]
 - (2) 歴史的経緯とアメリカ社会の現状
年表で学ぶアメリカの人種主義成立史
インタラクティブ映像でヒトの拡散を学ぶ
北米の植民地化のプロセス、「人種」間の所得格差の展示[写真2-3]
 - (3) 新しい成果と未来への提言
自然科学(おもに医学)の成果に基づく人種神話の解体
将来の国勢調査における人種の質問項目に関する模擬投票[写真2-4]

【考察】

- 【共通点】
- ・どちらも人種を歴史的に構築された概念とする認識に立って制作
 - ・自然科学の成果を多く取り入れることで、人種概念を解体する
 - ・歴史研究と社会学的調査の厚い蓄積に根差している
- 【相違点】
- ・地域の違いを反映して、歴史記述の重点がややずれていた
 - ・フランスでは歴史を中心とした人文社会科学的な成果が多い一方、アメリカでは医学的・生物学的な研究成果を多めに紹介する傾向
 - ・フランスのみに見られた要素:「分類とはどういう行為であるか」をめぐる根源的な問いかけから展示が始まっている
 - ・アメリカのみに見られた要素:国勢調査における人種関連の質問項目をめぐる模擬投票を実施し、參觀者の意識を問うている

【日本における今後のための示唆】

- ・人種と人種主義をめぐる議論と研究成果の整理
- ・博物館や大学などの機関による類似の企画を
- ・自然科学の成果の十全な活用へ

科学の成果は、かつての偏見に満ちた人種観を解体する利器として活用することができる段階に到達している
→ 人文社会学者は、自然科学者と共同して近年の成果を取り入れた新しい人間観を構築し、人種主義を乗り越えるための研究、教育、啓発に取り組んでいくことが望まれる